

「だれのための仕事なのか」

朝日新聞那覇支局長



電光掲示板の正しい使い方。これなら渋滞にイララするだけで済む(宜野湾市の国道58号で)

夏休みに四国へ出かけた。気ままにレンタカーを走らせ、おとついたらじいでの宿を取る旅。主要都市への距離や交通規制の情報を伝えてくれる電光掲示板は、どう

松田 和生
夏休みに四国へ出かけた。気ままにレンタカーを走らせ、おとついたらじいでの宿を取る旅。主要都市への距離や交通規制の情報を伝えてくれる電光掲示板は、どう

思ひ直しもした。ひよつとしたら大変な「月間」なのかも知れない。沖縄に戻るなり、国土交通省のホームページを開いた。いわく「國民に改めて道路とふれあい、道路の役割及び重要性を再認識してもらおう」とからには道路をじつくしむという道路愛護思想の普及及び道路の正しい利用の啓発を図り、道路を常によく美しく

イフに欠かせない道路付帯施設だ。国道十一号線の頭上にも数多く取り付けられた」と云ふが……。「八月は道路ふれあい月間です」うんそんのがあったな。ほんなく次の掲示板が現れた。

「八月は道路ふれあい月間です」それは分かった。でどうしたら

おずりでもすればいいのか。私の疑問とは無関係に、敵は容赦なく量みかけてくる。

「八月は道路ふれあい月間です」ええい、ほかに伝えるべき情報はないのが、頼むだれがあれを止めくれ。快適な気分は消えライカだけが募った。

安全に利用する機運を高める」ことを目的として……」。何これ? 日本語のひじりはおぐとしへ「の文を起案した人そして決裁したはずのエフイ人は「道路とふれあい」道路を「つくしむ」正しい利用」って何なのが本当に説明できるのか。ドリルやツバシで道路に穴を開けて回たり、爆破を試みたりする輩が横行しているのなら分からぬでもない。「ツミを捨てない」程度の話なら小学校じゃあるまじくわざわざ國のお役人に「教示いただくまでもない」道路愛護思想には思ひ切り笑わせもらつた。前身の「道路をまもる月間」は一九五八年に始めた。「のヤンペー」のために累計でどれだけの税金が投じられたか知らないが、いまだに國民は「啓発」の対象であるらしい。朝日新聞が八十八年以後の十四年間で「月間」に触れた記事は「十八本しかない」。その間、國側が恐らく全都道府県で記者発表を繰り返してきたにもかかわらずだ。「ふれあい」に名前が変わった今年はたった一本。マメ代アに乗るのがすべてではないだらうがこの数字は深刻に受け止めてもいいでないと思ひ。行政が「ふれあい」を言に出すと

には疑問を持たざるを得ない。いふのだろう。とても一般市民向けには見えない。受益者である農林水産業者には言わすもがな内容だ。安くはない金がかかつていいはずなのと、後は朽ち果てようがほつたらかしながら暴走族の落書きと変わらぬではないか。

改めて言つまでもないけれど、主役は住民。事業の改廃が大変なのは分かるが、すぐにでもできることは結構ある。沖縄総合事務局に関してつだけ挙げるならせいかく立ち上げたホームページ。住民との接点としては非常に有用なのに、九月になつてもイベント案内が七月で止まつて、このまいかがなものだ。

う。「しきこき」「やわらか」「わたり真」。小泉サンだけ痛みを伴う改革」と書いてこの「時世」の「耳障りのこ」言葉を「使えばよく分からぬ」事業を続けるのと、納税者もなめられたものだ。